

杉戸町消防団第3分団小屋の紹介

建設経緯

杉戸町では、中央地区の賑わいを生み出す新たなシンボルとして、旧杉戸小学校跡地活用事業を行い、その中で消防団第3分団小屋については移築することになりました。

新施設を杉戸町第2自転車駐車場跡地に建設することが決定し、令和3年度に設計を行い、令和4年度上半期に建設工事を行い、令和4年10月に完成いたしました。施設の特徴を紹介します。



外観の特徴

建物の外観は、杉戸宿をイメージした蔵風の外観を採用しています。蔵は江戸時代に住宅や商店建築に比べて火災に強い仕様で建てられていました。その火災に強いイメージの外観を採用しています。そして外壁1階には、木目調のサイディング、2階には塗り壁風のサイディングを採用しています。

消防車の出入りするシャッターには、杉戸町のマスコットキャラクター『すぎびょん』が消防ホースを持って消火活動をしているデザインの画像を採用し消防施設であることを演出しています。

※本体構造材に使用している杉材は、交流協定を結んでいる神川町産材を使用しています。木材を使用することで施設に炭素を固定して環境対策をしています。その結果、持続可能な**開発目標 (SDGs)** に貢献した施設となっています。



神川町にある杉戸町・神川町交流の森



神川町の構造材伐採現場

杉 戸 町



杉戸町マスコットキャラクター「すぎびょん」



新しい消防団第3分団小屋の特徴



建て方時構造材の様子

桧材は県産材、杉材は神川町産材



2階 内部の様子

腰壁やフローリングなどに県産材を使用し、木質感のある空間に仕上がっています。



神川町産材の施設名称板

名称板は交流協定を結んでいる神川町から寄贈して頂いた神川町産杉を使用しています。文字の彫り込みは官学連携協定を行っている日本工業大学に協力を頂きました。



鬼飾り

建物正面屋根上端部には、ガルバリウム鋼板製の鬼飾りが飾られています。従来の粘土瓦の意匠性を維持しながら鋼板にすることで軽量化を図り耐震性の向上に寄与しています。屋根瓦本体や棟瓦についても同様にガルバリウム鋼板製として軽量化を図っています。

建物概要

- 主要用途： 消防団詰所
- 構造： 木造2階建て
- 敷地面積： 140.06 m²
- 建築面積： 39.74 m²
- 延床面積： 79.48 m²
- 最高高さ： 7.98m
- 建設費用： 19,386,442 円（木材含本体費用）
- 建設期間： 令和4年5月～令和4年9月
- 木材使用量： 県産桧材 2.2 m³、神川町産杉材 8.2 m³
- 施設管理課： 危機管理課
- 施設建設課： 建築課

案内図



住所： 埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸3-9-17

交通： 東武伊勢崎線東武動物公園駅より徒歩5分